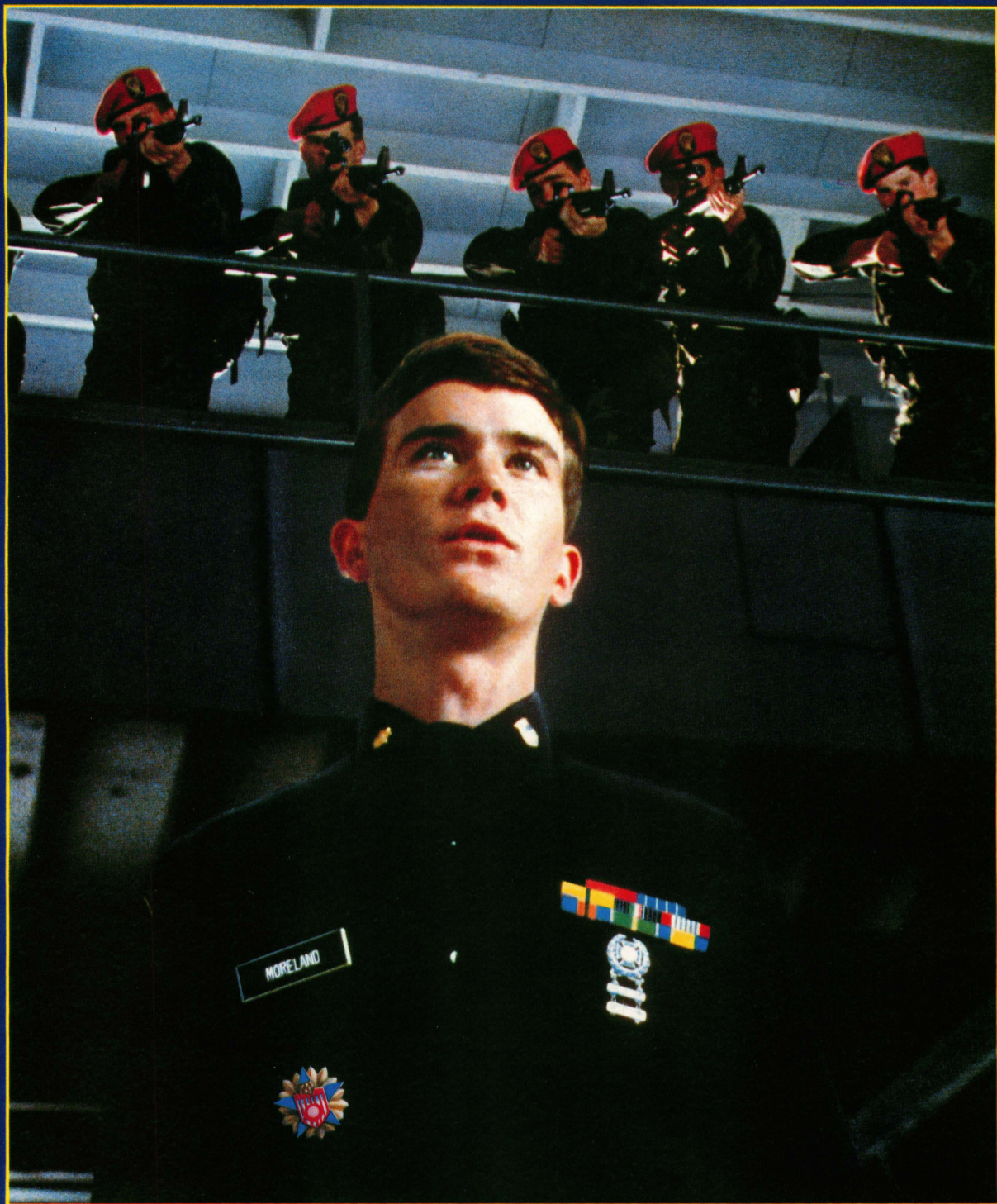


ホーム
「この学校は僕たちの家だ! 守るのは当然だ!!」



TAPS

〈カラー作品〉

タップス



スタンリー・ジャフィ製作 ハロルド・ベッカー作品

ジョージ・C・スコット／ティモシー・ハットン

ロニー・コックス

撮影オーウェン・ロイズマン ■ 製作スタンリー・R・ジャフィ／ハワード・B・ジャフィ ■ 監督ハロルド・ベッカー ■ 脚本タリル・ポニクサン／ロバート・マーク・ケイメン
脚色ジェームス・ラインバーガー ■ 原作デブリー・フリーマンの小説「ファースター・スカイ」より ■ 音楽モーリス・ジャール

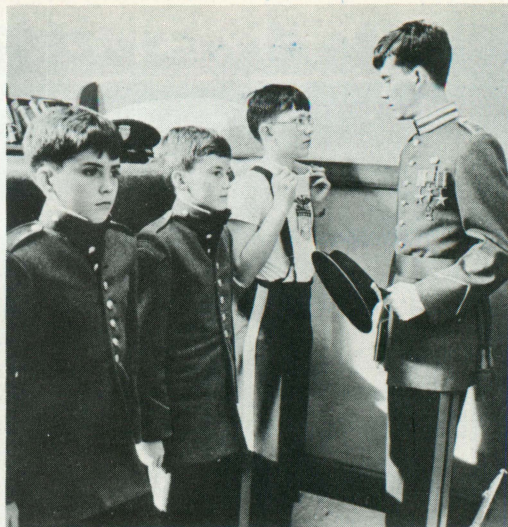
★スタッフ

監督……………ハロルド・ベッカー
製作……………スタンリー・ジャフィ
……………ハワード・ジャフィ
脚本……………ダリル・ポニクサン
……………ロバート・マーク・ケイメン
原作……………デブリー・フリーマンの小説
撮影……………オーウェン・ロイズマン
音楽……………モリス・ジャール

★キャスト

ペイチ将軍……………ジョージ・C・スコット
ブライアン・モーランド……………ティモシー・ハットン
カービー大佐……………ロニー・コックス
ドワイヤー……………ショーン・ベン
デービッド・ショーン……………トム・クルーズ
チャーリー……………ブレンダン・ウオード

〈上映時間＝2時間6分〉



★12才から17才までの少年150人はなぜ銃をとって大人に戦争を仕掛けたか？全米で衝撃の大反響！

今年の全米ニューイヤー・シーズンで大ヒットになった衝撃の話題作である。12才から17才までの少年たちが学ぶバンカーヒル陸軍幼年学校で、150人の学生たちがマシンガンや手榴弾などで完全武装し学校内に籠城し大人たちに実力行使に及ぶというショッキングな内容は、センセーションを起こし同世代の若者たちに強烈な共感を呼び、劇場には長蛇の列が出来た。劇中の若者たちと一体となって校内戦争のなりゆきを見守っている。

なぜ彼らは無謀ともいえる反乱を起こしたのか？——開校以来、一世紀半の歴史と伝統を持ち、数多くの名將軍を生んだ、この私立陸軍学校が、閉鎖となりマンション用地として売りに出されることになったのが、きっかけだった。国防の義務感にもえ、なによりも名誉と秩序を重んじる教育方針に忠実な純粋な若者たちの誇り高き挑戦と、無理解な大人たちへの反逆の戦いは、かくて予想もしなかったパニックと悲劇に向って一直線になだれこんでいく。

★装甲車が出動し学校は凄絶な戦場と化した！
ダイナミックなアクション／涙のクライマックス！

最上級生で反乱のリーダーとなるモーランド（普通の人々）でアカデミー賞受賞のヤングのアイドル、ティモシー・ハットンが魅力のすべてを見せて人気爆発）は、校長のペイチ将軍（ハットン大戦軍団）の名優ジョージ・C・スコット）を、神格化し彼の教える名誉こそ最高の美德と信じている少年だった。学校は彼らにとってホームであり、これを守るために若者たちは連帯感で一つになった。食糧を調達し籠城した学生たちを説得するため、PTAが動きたし少年たちに武器を捨てるよう呼びかけてきた。

州警察が出動し、校門の柵をはさんで一触即発の対立が続いた。モーランドは学校閉鎖案を破棄させることが行動の目的で、流血騒ぎを起こすことを好んではいなかった。しかし理事会は強硬で、廃校撤退を認めず、ついには州兵の出動となる。

名誉より友情を重んじるといふモーランドの親友ドワイヤー（新人ショーン・ベン）だったが二人の間には意見の相違からケンカに発展。団体行動から離脱していくものも現われてきた。校内のエリート部隊、赤ベレー団

のショーン（マローン・ブランドの再来といわれる魅力の新人トム・クルーズ）は、なかでも過激派で、ことにドワイヤーと対立していた。12才のまだあどけない少年兵チャーリー（ブレンダン・ウオード）はモーランドを兄のように慕って最後まで行動を共にしようという決意していた。州兵の実力行使体制による極度の緊張からチャーリーの仲間デレクが柵に向ってかけだし離脱を計ったのをとめようとしてチャーリーが銃弾に倒れるという悲劇が起こった。観客席からすすり泣きもれる涙のシーンだが、ここからダイナミックなアクションと共に、学校は戦場と化して迫力あるクライマックスに突入していく。

★マスコミも絶賛！その主題の重要性をめぐって
教育関係者、父兄層にも大論争を展開！

「タップス」とは、アメリカの軍隊用語で消灯ラッパ、葬送ラッパのことだ。ペイチ将軍とチャーリーの死がきっかけとなって、モーランドは、自分たちのおとっている行動が正しいものなのかと疑問を持つようになる。そればかりかペイチ将軍の教える軍人の名誉、国家への忠誠という彼の思想の根源、価値観が、ゆるぎだす。それははたして真に価値あるものだったのか？——第一次大戦からベトナム戦争まで、半世紀を戦争と軍備拡大についてやしてきたアメリカのミリタリズムは、結局、大いなる浪費と虚妄ではなかったか？この映画の主題と問いかければ、じつはここにあり、そのテーマの重要性をめぐって、ベトナム戦争が終わったいま、全米のマスコミ界に議論を呼んでいる。ヤング層から教育関係者、軍関係者、父兄層へと、この映画は大反響を起こし、テレビはティイチ・インを展開。社会現象ともいえるべき異常なブームとなった。

製作のスタンリー・R・ジャフィは「クレイマー、クレイマー」で一大ブームを起こした人だが、「タップス」は前作以上に重大な問題をふくむ傑作として、またまたジャフィは時の人としてクローズ・アップされマスコミは絶賛の言葉を贈っている。

「俺たちに明日はない」の名匠アーサー・ペンが80年代に贈るもう一つの「アメリカン・グラフィティ」——青春映画の新しい傑作が生まれた！

フォーン・フレンズ 近日大公開

伊勢丹前 シネ・タウン

新宿スカラ座 (351)
3127

次回ロードショー

お得な特別鑑賞券 ¥1200 (当日 一般1500円 学生1300円 の処) 絶賛発売中！

連日 11:00 1:35 4:10 6:45